

すと、この近くに点々と植わっておりま  
すひのきは、松田先生が植えられたとい  
うことです。

そのほか、樹齢六十年ぐらいのくぬぎ  
の林があります。学生達は、これを大学  
の森と呼んでいます。この疎林の間から  
見える阿蘇、鞍岳、菊池の連山がこの  
学校をとりまいていて、まさにこれ  
らの山々が私達の生活を静かに見守っ  
ているという感じがします。時として、わがま  
まなことをやると、しかっているとい  
ふふうにも見えます。非常にすばらしい環  
境です。

こういうことについて、あるいは建学  
の精神といったもの、入学して皆な感  
じたことなどについて第一卒業生の皆  
さんから、また先導農家でいらっしゃる  
大賀さんからお話しをうかがいたいと思  
います。

後藤 環境は、すばらしいと思います。  
学校生活について言えば、学び足りな  
かった点もありますが、全寮制という生活  
の中でたくさんの方と出会えたことは良  
かったと思っています。

梶原 まず大学に入って感じたことは、  
広々として、さわやかさがあり、ここ  
二年間勉強できるということはすばら  
しいだろうなということでした。今、二年  
間過ぎましたが、自分が求めようとした  
ものがある程度つかむことができたの  
ではないかという気がしています。

沢村 最初ここに来た時の印象は、のん

てみますと、苦しいこと、つらいこと  
ありますが、自分の腕次第ではどんな  
ことでもやれるというのが農業のすばら  
しいところだと思っています。

私も、何か目標をもってやろうとい  
うことで、高卒後短期間北海道へ実習に  
行きました。現状をみて、このままでは、  
九州の酪農は負けてしまうなと思いま



た。帰って来て、さっそく資金を借りま  
して畜舎の増築を図りました。最終的  
には、ゆとりある生活を是非やりたい  
いうことで色々やっています。

サークル活動も仲間と一緒にやって  
きました。

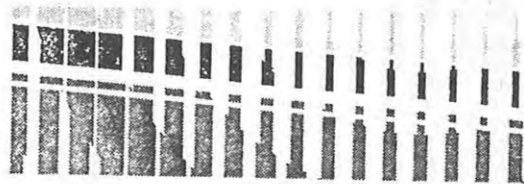
今の農業は非常に厳しい状態にある  
と思います。しかし厳しいからこそやり  
がいもあると思います。誰がやっても成  
功する農業というのはやりがいがない  
うんです。自分の創意、工夫でやれば  
できるんだということを皆さんが実証  
していただきたいと思います。皆さんの活躍  
を期待して待っています。

沢村 農業が他の産業とくらべていい  
ところは、自分の好きなことをやってい

びりして静かだということでした。  
ここなら自分の思っている勉強が  
できるんじゃないかと強く感じました。実際、  
二年間過ごしてみて、そうであったと思  
っています。

井 大賀さんも何か本校へお出でいた  
だいていることと思いますが、何かご感  
想をお聞かせください。

大賀 まだ学校ができていない時、隣の  
の試験場に来る機会がよくありまし  
た。ここはすばらしい環境だなと思  
っていました。それで、ここに農業大学  
ができると思った時は、自分も若ければ  
こんなすばらしいところで勉強したいな  
と思った次第です。皆さんは、非常に  
うらやましいと思います。



るというところにその魅力があると思  
います。時間に縛られるということもあ  
りませんね。

私がここに来た目的は、高校を卒業し  
た時点では、不安があったんです。百  
姓するにはまだ早いという気もしたし、  
実際やっていく自信が欠けていたみた  
いですね。

二年間、専門的なことを学びそれな  
りの自信はつきました。

梶原 ぼくも、出身は農業高校です。高  
卒後直接就農する者もいましたが、高  
校三年間というのはばく然と過ぎてしま  
って何も残ってないという感じでした。こ  
れではいけないと思って、あと二年間  
張って、これから先やりたいと思ってい  
たことをもう少し突き込んでやりたい  
と思ってこの大学へ来ました。

農業情勢も悪くなり、農家も苦しい立  
場にありますけど、将来ともこの状態が  
永く続くとは思いません。明るい兆し  
も見えて来ると思います。ここで学んだ  
ことを、自分の力と技術とをかみ合わせ  
て、社会情勢に耐え得る力を身につけ  
て、農業にゆとりのある生活を求めて  
いきたいと思っています。

後藤 この学校へ来た目的は、後継者に  
なろうということでした。知識とか勉強  
しようと思っただけで来たんです。男  
子が多かったし、しっかりした考えの  
人が多かったものだから。自分は女性だ

## 農業の魅力

井 本校の教育方針は、給料生活者を育  
てるのではなくて、自営者を育てること  
です。従って求められるものは、やはり  
自営者としての厳しき、新しい農業に対  
する創造性を育てることです。これ  
までの農業は、どちらかと言えば親の  
やっつけを踏襲してきた。安易な  
感じで農業をやってきた。従って農業  
というのは、粗食に耐えて親の財産を守  
って一生懸命働いて行けば足りると、そ  
ういう感じだったわけですね。

第一のイメージとして農業というのは  
社会の中でも非常に下積みな仕事で非常  
に辛い仕事であるというようなこと  
でした。これをもう少し豊かな農業をつ  
く。田園を楽しんで行く。こういう境  
地を創造して行く。そういう人を育て



ゆくということがねらいなんです。

今までは、長男には非常に「がまだす  
嫁」を、しかし、自分の娘は農家には嫁  
がせたくないというのが一般的でした。  
これではどうにもならないと思います。  
時には、苦勞しても田園を楽しむよう  
な境地を創造する能力を育てなければ  
ならない。

それから農業というのは、今までも  
うでしたが、これからは社会的な価値  
はおろそかにしてはいけません。農  
業というものの社会的な価値を認識  
して、これに相應する農人というものを  
育てることが必要だと思います。

もう一つは、農村という社会のもつ意  
義、よく言われている民族のふるさと  
である。精神面においても、生活面にお  
いてもその意義は重要であると言われ  
ています。その良き農村人となること  
ですね。その理解と見識を養うことも教育  
の方針であるというふうに考えます。  
そういう点での感想は如何でしょう  
か。

大賀 私も、高卒後何となく農業を選ん  
だというのが現状だったんです。やっ



▲阿蘇、菊池の連山に囲まれ、すばらしい環境にある